

# 保有アセットの有効活用による デジタル・インフラ普及への貢献

---

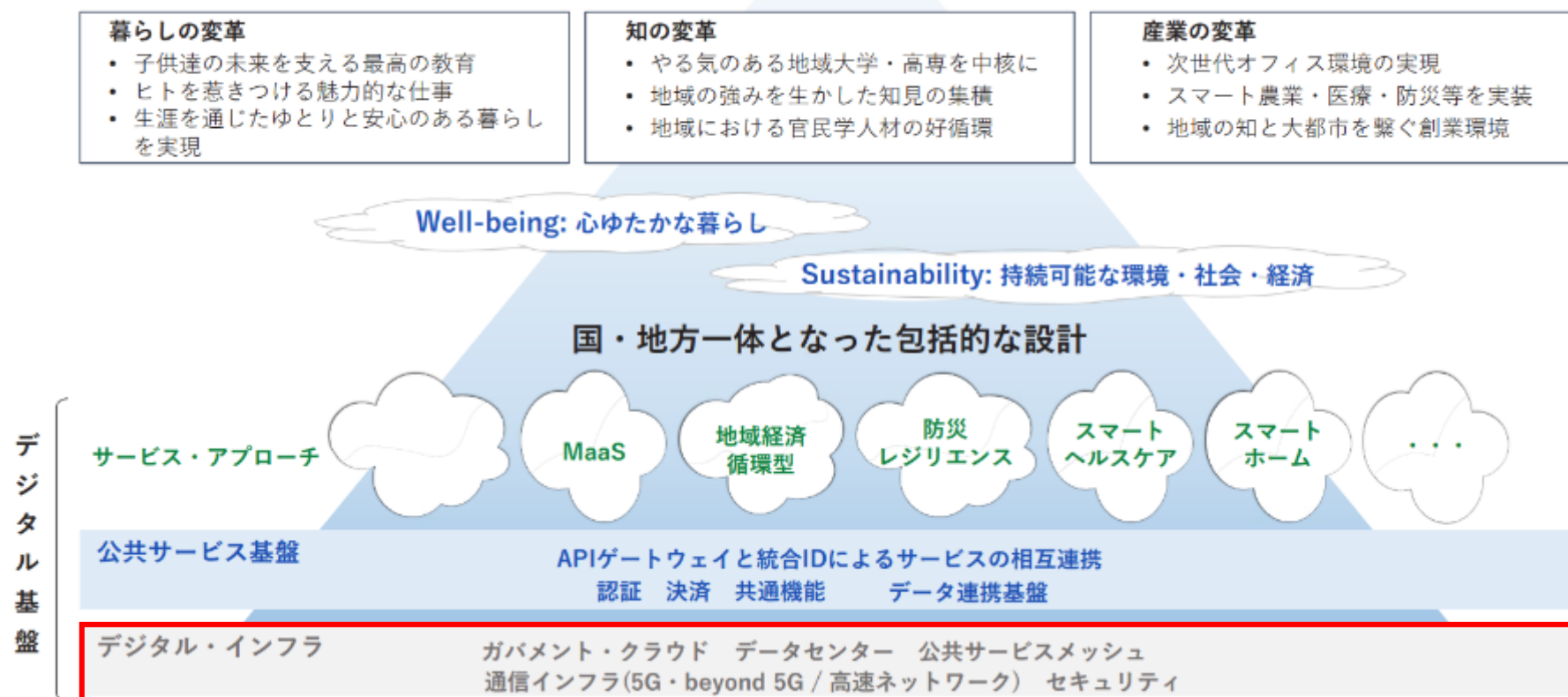


2022年2月24日

東京電力パワーグリッド（株）  
取締役副社長執行役員  
岡本 浩

- デジタル田園都市国家構想は、その実現を通じ、様々なデジタルサービスが創出され、社会的課題の解決、産業競争力の強化に繋がる重要な施策であると認識。
- インフラとサービスは鶏と卵の関係であり、同時にセットしていくことが基本であるが、**「デジタル・インフラ」をいかに効率的かつ迅速に普及させていくかがデジタルサービス創出の鍵**となる。

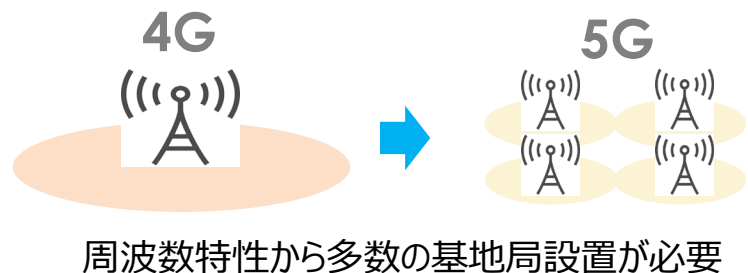
地方の魅力をそのままに、都市に負けない利便性と可能性を



出典：第1回デジタル田園都市国家構想実現会議資料より抜粋

- デジタル・インフラのベースは、あらゆるデータを収集・制御するための高品質な「通信インフラ（5G等）」だが、5Gではこれまでより多くの携帯基地局の設置が必要となる。
- 全国に5Gインフラを早期に整備していくためには、携帯基地局設置のための場所、電源、光ファイバが必要となるため、物理的制約や個社では収益性が望めないケース等において、**インフラシェアリングを積極的に活用することが有効。**

＜デジタル田園都市を支えるデジタル・インフラ＞  
ガバメント・クラウド データセンター 公共サービスメッシュ  
通信インフラ（5G・beyond5G／高速ネットワーク） セキュリティ



地方を含め広範に  
5Gインフラを整備  
していくための課題

基地局設置場所の確保

収益性の向上

携帯基地局に関する設備を共用するインフラシェアリングの積極的活用

- 当社は、関東一円に送配電事業用の電源・光ファイバが敷設容易なアセットを多数保有。
- これまでもアセットの有効活用を主眼とした「5Gインフラシェアリング」に取り組んでおり、これを進めることに加え、他のアセット保有企業と連携することで「デジタル・インフラ」の早期整備に貢献できる可能性。

## 当社アセット例



送電鉄塔

約5万基



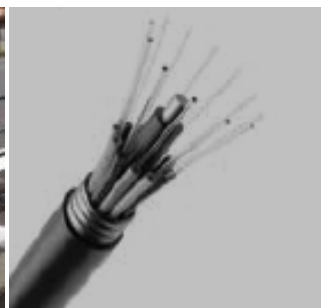
電柱

約600万基



配電地上機器

約5万基



光ファイバ網

約10万km



変電所・事務所

約1,700箇所

## 当社取り組み例

配電地上機器を活用した5Gインフラシェアリング



事務所スペースへの携帯基地局装置設置（コロケーションサービス）

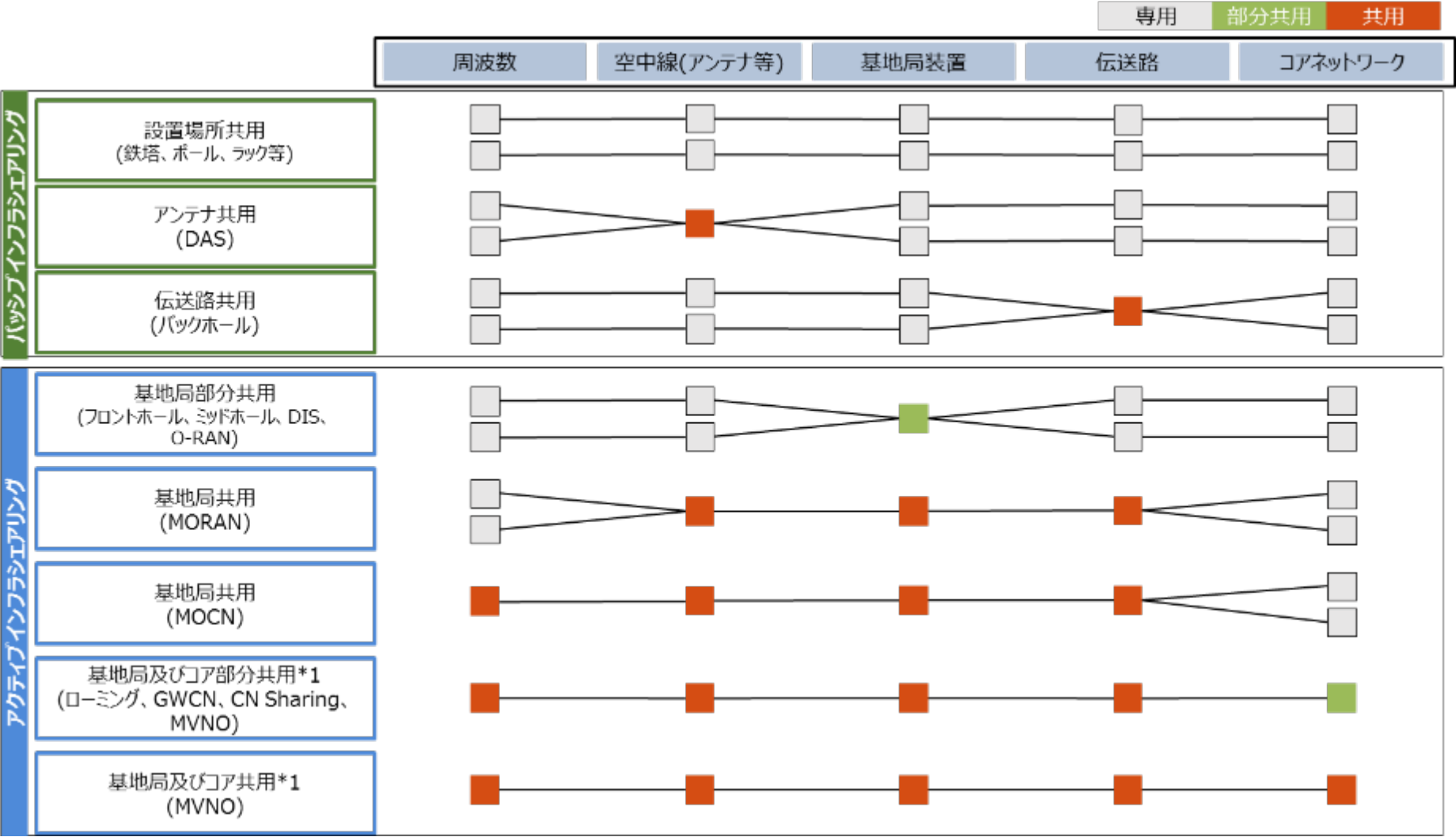


携帯電話業界関係者との5G基地局意見交換会の開催

将来の5G基地局の在り方に向けた意見交換会  
公開用最終取り纏め資料

東京電力パワーグリッド株式会社  
2022年2月4日

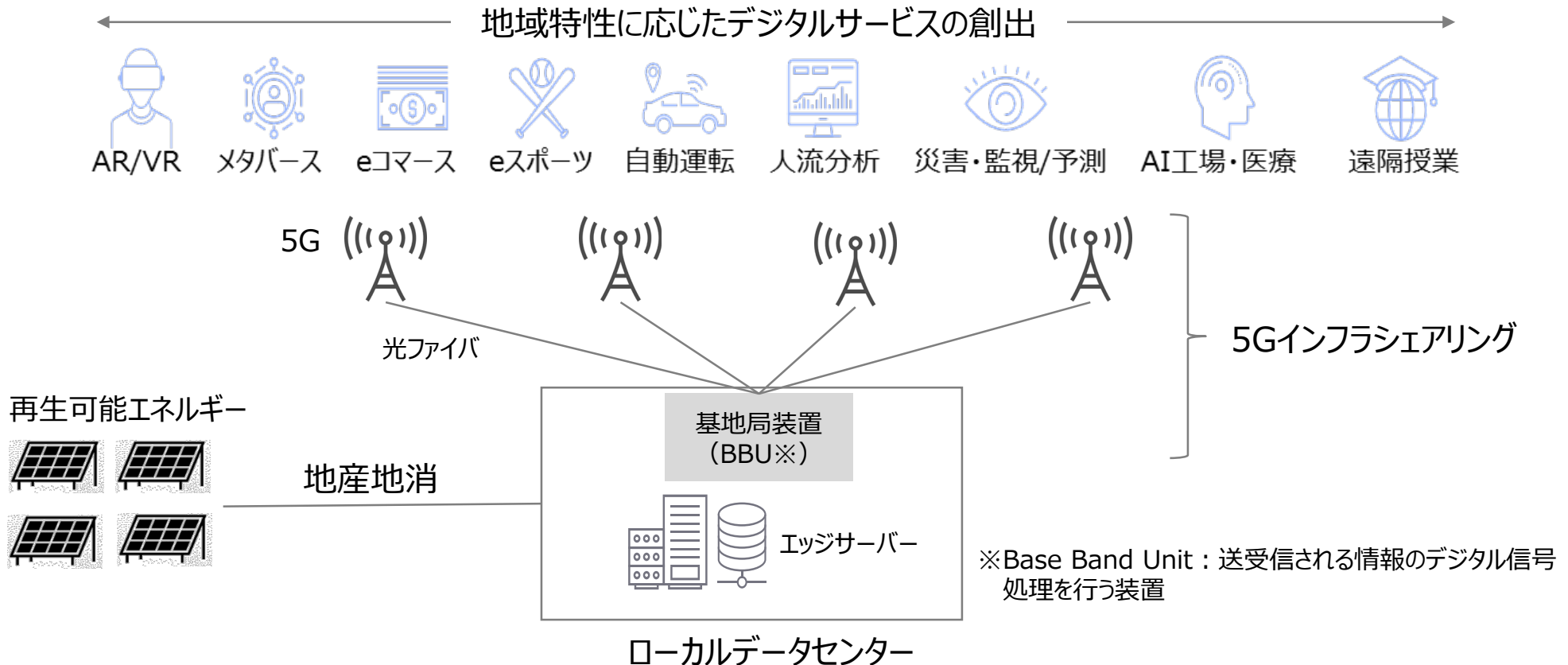
■ インフラシェアリングの技術モデルは様々あるが、課題の大小や各種制約（物理的／収益性）から生じるニーズに応じた組み合わせにより検討・活用される。



出典：当社HP：「将来の5G基地局の在り方に向けた意見交換会」報告書

- 5Gインフラの地方整備、低遅延性が求められるサービスニーズの高まりに伴い、地方へのデータセンター（ローカルデータセンター）整備が進み、地域に即した各種デジタルサービス創出が期待される。
- ローカルデータセンター整備においても既存アセット（空きスペース等）やインフラシェアリングの活用は有効であり、地域の再生可能エネルギー活用によりカーボンニュートラルへの貢献に繋がる可能性もある。

## <ローカルデータセンターの活用例>



- 地域のデジタルインフラの整備にあたっては、インフラシェアリングを後押しする制度により、そのポテンシャルを更に有効に活かすことができると考えられるため、その充実を検討していただきたい。
- デジタル連携基盤および地域のデジタル実装に貢献するローカルデータセンターの整備についても財政的支援対象となるようご検討をお願いしたい（例：デジタル田園都市国家構想推進交付金 TYPE2/3）。

## ＜TYPE別の内容＞



※申請上限数：都道府県 9事業 市町村 5事業

## ○要件（TYPE共通）

- デジタルを活用して地域の課題解決や魅力向上に取り組む
- コンソーシアムを形成する等、地域内外の関係と連携し、事業を実行的、継続的に推進するための体制の確立

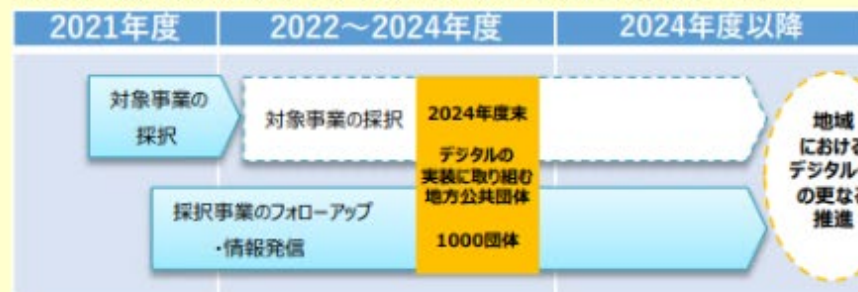
※TYPE 2・3については、官民および民間事業者間での相互連携性の確保など、デジタル原則への準拠を求める。

## ＜対象事業の例＞



## ＜中長期的取組＞

事例の採択・フォローアップや好事例の情報発信により、地域のデジタル実装を強力に支援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進。



## ○データセンター/海底ケーブル等

- データセンター、国際海底ケーブル等のデジタル基盤は、東京圏に過半が集中。今後も集中が加速見込み。
- 国内海底ケーブルは主に太平洋側に敷設され、日本海側がミッシングリンクに

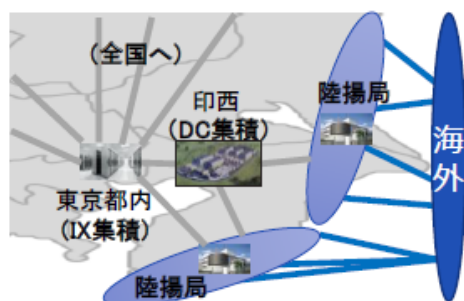
- 基金（6カ年）を活用して強力に推進
  - ✓ 日本海側を周回する国内海底ケーブル（「デジタル田園都市スーパーハイウェイ」）を3年程度で完成
  - ✓ データセンター、国際海底ケーブル等の地方立地を迅速に推進

### 【当面の目標】

10数カ所の地方データセンター拠点を5年程度で整備

### （インフラの立地状況）

DC、国際海底ケーブル（陸揚局）、IXが東京圏に一極集中



### （通信ネットワークの状況）



## ○光ファイバ、5G

- 地域によって整備状況に差
- 光ファイバは、維持管理費への支援追加が不可欠
- 5Gは人口カバー率の追求も重要

- 補助金等の要件の見直しに加えて、制度改正等も組み合わせ、光ファイバの世帯カバー率や、5Gの人口カバー率を向上

### 【当面の目標】

光ファイバ：2030年までに99.9%の世帯をカバー

5G：2023年度までに人口カバー率を9割に引き上げ